

持続可能なまちづくりをめざして

一 誰一人とり残さない地区を一

清明公民館

1 清明地区の概要

清明地区は、福井市の中心部から約 5km の南部に位置し、自然と歴史に恵まれた地区である。

地区のシンボルである城山（じょうやま）や引目山を背景に、朝六ツ川・江端川が流れ、緑豊かな田園地帯が広がっている。

清明地区は、1982 年の清明小学校開校と同時に誕生し、2022 年には 40 周年を迎えた。

2024 年 3 月 1 日現在の人口は 7,593 人、世帯数は 3,179 世帯である。

2 未来に繋がる住民主導のまちづくり

清明地区の大きな特徴のひとつに住民主導のまちづくりが挙げられる。

この動きの核となる団体が「清明まちづくり委員会」である。委員会は、自治会連合会と協働して「夏まつり」「文化祭」「城山登山」を中心とした活動を行うことで、文化歴史を継承しつつ、住民相互の親睦と交流を図っている。

また、2015 年には「清明まちづくり未来ビジョン」を理念として掲げ、未来ビジョンロードマップをもとに、活力ある街として未来に繋がるよう継続して取り組んできている。

3 防災拠点としての公民館

2024 年は福井豪雨から 20 年を数える。

2004 年（平成 16 年）7 月 18 日未明からの記録的な大雨で、私たちの住む清明地区でも、江端町や下荒井町一帯が浸水した。

「自動車街」として有名な福井県道 30 号福井丸岡線、通称「フェニックス通り」のディーラー様でも一階部分が膝まで浸水し、かなりのダメージを受けた、と当時を振り返った担当者は語っている。

また、自主防災会連絡協議会の方に伺うと、「足羽川の堤防が決壊した 18 日午後 1 時頃から、今度は江端川の水位が徐々に上がってきたため、浸水も徐々に深くなった。夜の 9 時頃が最も水位が上がったことが衝撃だった。」と話されている。思いもよらない自然の驚異に畏怖するばかりだったようだ。

公民館では、過去の教訓を語り継ぎ、防災意識を少しでも高めようと、2023 年度事業として四半期ごとをめどに講座を実施した。

2024 年 2 月には福井県下の地区開催としては初めてとなる「逃げ地図」づくりのワークショップも実施している。

2024 年元日には「能登半島地震」が発生し、市内も震度 5 弱を観測し、決して他人事ではないと改めて感じられるところであるが、防災・減災に関して手をこまねくのではなく、「正しく恐れる」よう、今後も、「我が家、我が町の防災」を考える企画を継続実施していく。

4 守りたい清明の里地里山

城山を中心とした地域は、いわゆる里地里山であり、福井市内でも比較的自然の残る場所である。四季を通じて野草やホタルの観察会ができることは、参加者から驚かれる。

しかしながら、その豊かな自然も守っていかないことには、荒廃がすすみ、消滅の危機に瀕することは、清明地区も例外ではない。現に、河川の水は、専門家によれば、水棲生物が生きづらい環境になりつつあるという。

地区民の生活を尊重しつつ、自然とうまく付き合い、次代につなげるには専門家の話をお聞きしたり、自然保全がなされている他の地区を見学したりしていくことが大事で、公民館が担う役割は決して小さくはないと責任を感じているところである。

5 SDGs パートナーとしての公民館

清明公民館は、2020年から「ふくいSDGsパートナー」登録を果たし、更新を続けている。

また、2022年には、近隣の麻生津及び社南公民館を含む3公民館と、(株)ベルとの「SDGsの推進に係る連携と協力に関する協定」を結んだ。さらに同年、県のマイボトルパートナーとしても活動登録され、環境に配慮した公民館として多岐にわたる活動を行っている。

さらに、家庭ゴミ減量や資源化は、地元のNPO法人と協働して継続的に取り組んでおり、誰もが手軽に、しかも着実に実行できることの広報啓発活動を行っている。

6 次代へ継承するために

(1) 若年層の参画をめざす公民館

人口動態において清明地区の住民現況をみると、全体的な高齢化は避けて通れない反面、40代男女の比率が多いことに気づかされる。

この世代を核とする若い年齢層は、一見公民館活動から少し距離があるように思われる。

しかしながら、町内単位の集会や体育振興、子ども関連の行事には、保護者や参加者として担い手の役割をしっかりと果たして活躍していることが窺われる。

これらの方々と、これまで地区を担ってこられた方々とを、ゆるくてもいいので関係をつないでいくことが今後の公民館の役割のひとつであろう。

取組みとしては、だれもが「じぶんごと」になりうる、前述の防災教育の継続的実施や、次世代がプランナーとなる企画を創り出す、あるいは応援すれば新たな活路が見いだせるのではないかと考えられる。

(2) 放課後子ども教室を核とした子どもの居場所づくり

2024年度には、それまでの国の補助事業から福井市の単独事業となった「放課後子ども教室」の活動において、清明公民館は、早くから継続的に関わってきており、2023年度には延べ64回、769名の子どもたちが各種イベントや講座に参加された。

これからも地域住民や保護者の協力を得ながら、子どもたちの居場所を継続的に確保していきたい。

(3) 魅力ある教育事業

家庭、少年、青年及び福井学の各教育事業のほか、地域課題解決として、防犯防災、健康長寿ICT及び環境教育事業も積極的に実施している。2022年度には健康長寿事業をきっかけに健康維持のための自主グループが発足したり、2023年度には年間を通じたベビーヨガ&クラフト教室を実施して240組近くの参加者がみられたりするほか少年教育事業や福井学においても小・中・高校生との交流を盛んに進めるなど、新たな関わりが生まれる教育活動も展開している。

(4) 活発な自主グループ活動の支援

清明公民館の自主グループは、2024年度現在で35を数える。

前述のとおり、教育事業から発展した例もみられるなど、地区住民の活動は盛んといえる。

これらの活動が円滑に行えるよう、公民館施設の管理や日程調整などを行い、ますます使いやすい公民館をめざしていきたい。

(5) 新たなチャレンジの支援

公民館の貸館業務のなかで、不定期ではあるが、音楽やスポーツ活動又はダンス練習など新たな分野の貸館に対しては、自主グループや地区団体などが使用する以外の可能な日時で、できる限り応じている。

清明地区は市の郊外に位置しているが、駐車場などを確保しやすいことからか、地区外からの利用の問い合わせをいただくことが多く、新たなチャレンジの場づくりとして提供できるよう工夫しているところである。

7 終わりに

これからの清明地区は50周年にむけた大きな変革の時代を迎えている。また、「清明まちづくり未来ビジョン」についても、2025年度からは新たな段階に突入する。

この機に、これまで培われてきた「子どもが集まる公民館」「環境に配慮した取組みを行う公民館」という清明のイメージをさらに発展させ、いろいろなチャンネルとなれるよう努めていきたい。